

## 失敗から学ぶ そして活かす・つなげる

副校長 笠原 丈史

私は、この4月に本校に副校長として着任しましたが、教諭としては初任のときから20年ほど情緒障害通級指導教室（主に発達障害のある児童生徒を対象に、主に自立活動の指導を行います）を担当してきました。私が教員になった当初は、今の「特別支援教育」は「特殊教育」、「自立活動」は「養護・訓練」（このあたりの用語の解説は割愛します）と言われていました。

今でこそ、私も少し大人（？）になって、ある程度冷静に児童生徒の様子や指導・支援について考え、実際の対応もできるようになってきている（思い込みかもしれませんが…）と思いますが、教員になりたての頃は、指導を担当する子どもたちをどうにか成長させたいという思いで我武者羅だったように思います。自分では「子どもたちのために」という思いはあったとは思いますが、当然のことながら社会人・教員になりたての未熟者ですから、それほど上手に指導・支援ができるわけがありません。それでも「子どもたちのために」というお題目を印籠のようにして、子どもも保護者も、自分自身も納得させていたのかもしれませんが。本来はよくないことではありますが、これまで私の指導に関わった多くの子どもや保護者の皆さんには、多少の成果はあったにしても、たくさんのご迷惑をお掛けしたことと思います。しかし、そうした自身のたくさんの失敗の中で、多くの子どもたちや保護者から学ばせていただき、成長させてもらって、今の自分があると思っています。

話は変わりますが、通級指導教室には「失敗する」や「負ける」ことを過剰に捉える子どもたちが多く通ってきていました。「失敗しても（負けても）大丈夫」「失敗してもやり直せばいいんだよ」「次は勝てるかもしれないよ」などなど、励ましたり捉え方を和らげようとしたり、いわゆる正攻法とも言える方法で子どもたちには伝えてきました。しかし、どれも今一つ成果が上がりません。そんな時に、ある保護者から「うちの子は親の言うことは信じないんですよ。ところが、本に書いてあることを見て、『お母さんの言っていたことは本当だったんだね。』って言うんですよ。」という話を伺いました。その子の中では、身近な人が言う消えていく言葉には信憑性はなく、世の中に広く出回っている本などに記されたものこそが価値があり、信頼できる真実だったのでしょ。

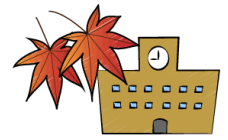
これを受けて、本やインターネットで著名人の失敗に関わる語録をたくさん探しました。その語録を使って子どもたちに指導をしてみると、子どもたちの失敗への対応が劇的に改善されるケースが増えました。もちろん、どのように使ったかは「企業秘密ですが…（笑）」。

誰もが知っている成功者だと考えられている著名人だからこそ言える言葉かもしれませんが、やはり含蓄があるように思います。例えば、こんな人の、こんな言葉です…（一部、割愛・改編しています）。

- ◆ 「世の中に、失敗というものはない。チャレンジしているうちは失敗はない、諦めた時が失敗だ。」  
稲盛 和夫（京セラ・KDDIなどの創業者）
- ◆ 「それは失敗ではなく、その方法ではうまくいかないことがわかったんだ。だからそれは、成功なんだよ。」  
トーマス・エジソン（「発明王」の異名をとる発明家）
- ◆ 「1度も失敗をしたことがない人は、何も新しいことにチャレンジしたことがない人だ。」  
アインシュタイン（物理学者・ノーベル物理学賞受賞）
- ◆ 「自分のなかで「何事も失敗してこそ」っていう思いがあって、失敗をすることも楽しいんですよ。」  
長谷部 誠（元サッカー日本代表キャプテン）
- ◆ 「壁というのは、できる人にしかやってこない。超えられる可能性がある人にしかやってこない。だから、壁がある時はチャンスだと思っている。」  
イチロー（プロ野球選手）
- ◆ 「成功を祝うのはいい。しかし、もっと大切なのは失敗から学ぶこと。失敗をどう生かすかで、・・・（中略）。だからどの会社にも、ミスをして、それを最大限活かした経験のある人が必要だ。」  
ビル・ゲイツ（マイクロソフト社創業者）

*It is wonderful to challenge!!*

# 二つ橋スクールライフ



## 〇1年生

9月中旬に第2回目の職場見学会がありました。見学会を通して、生徒たちは企業で働くために必要なことや大事なことを感じとってきたように思います。お礼状も以前に比べ、文章が書けるようになってきました。9月20日（木）の遠足では、雨の中、鎌倉・江の島を散策しました。始めは集合時間ギリギリでしたが、最終待ち合わせには5分前に全員集まり、思い思いのお土産を手にしていました。後期から始まる初めての現場実習では、今持っている力をぜひ実習先で試してほしいと思います。もちろん、うまくいかないこともあるかと思いますが、今後の成長につながる実のある実習になるよう支援していきたいと思います。

## 〇2年生

2年生の前期と後期の境目は、二つ橋での生活の折り返し地点になります。つまり、二つ橋での生活の半分がもう過ぎ、これからは後半戦に入るということです。「もう半分」と思う人も、「まだ半分」と思う人もいることでしょう。どちらにしても、残りは半分。平等にあるこの時間を中身の濃いものにできるよう、生徒一人ひとりを見守っていきます。

いよいよ始まる後期現場実習は、希望職種での2週間の実習になります。毎日を過ごすだけで精いっぱいになるのではなく、自分の将来をイメージするための材料をたくさん見つけてきてほしいと願っています。

## 〇3年生

「ロボットが人間の仕事を奪う」といった話もありますが、実習先を訪問していて、以前某有名会社の自社ビルだったところに様々な会社のオフィスが入り、「あれ？また変わった」ということがよくあります。つまり、仕事は消滅してはいないが、変わるのです。

さて、試験実習に臨む3年生は、企業側からどんな目で見られるのでしょうか。3年生には「変化に対応できる人になろう」と事あるごとに言います。世の中が変化していく以上、労働者は変化への順応を余儀なく求められますから、生徒には「いろんな事が任せられると思わせ、光るものがあればさらにいい！」とレベルを上げて指導してきました。意図的に「AをBに変更します」と指示することもしばしばです。変化に対応する心の準備ができているかどうかは試験実習のポイントです。

## 〇保健室から

以前、就労準備性ピラミッドというものを教えてもらいました。それは、働くために身につける力を示した図でした。上から「仕事の力」「労働習慣の力」「日常生活の力」、そして一番下の土台になるのが、「健康管理の力」でした。これを見て、やはり働いていくためには、健康に気を付けていくことが大切なのだと思います。

睡眠・食事・運動はもちろんですが、病院に受診することや、忘れずに服薬すること、心の疲れに気づくことなども、健康管理に入ります。ぜひ元気に実習を頑張ってきてほしいです。

9月4日に歯科巡回指導、10月11日には学校保健委員会がありました。歯科巡回指導の結果からは、よくみがけている人が増えていました。はみがきは毎日継続することに意味がありますので、今後も正しいはみがきをしてほしいと思います。

## 〇「横浜市立二つ橋高等特別支援学校 Web サイト」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/ss/futatsubashikoto/>

